

紫塚同窓会報

第 42 号

発行者 増 淵 忠 行
 発行日 令和元年6月 日
 発行所
 栃木県立大田原高等学校
 紫塚同窓会
 印刷所 有限会社光陽社

尊い命の叫びを生かし

紫塚同窓会 会長 増淵 忠行
 (高16回)



3月27日に那須で起きた雪崩事故で、尊い命を落とされた7人の生徒さんと毛塚先生のご冥福を祈るとともに、ご遺族の皆様のご心境をお察し申しあげる日々を過ごしております。何よりも一番大切な命を、「春山安全登山講習会」と言う行事の中で落とされてしまった、ご遺族の皆さんの悔しいお気持ち、怒りは痛く響いております。

同窓会としては陰ながらお悔やみ申しあげるとともに、あってはならない今回の事故から教えられ、また叫ばれていることを「決して風化させず」に、「再発防止」に向けた側面支援が一つの使命だと考えています。

115年の偉大な歴史と伝統を誇る大田原高校がありますが、今回の残念至極な大事故でも、それは決して消えるものではありません。しかし私たちは尊い命を落とされた8人の皆さんからの「安全・安心」に対する教えを生かし、これまで以上に絆を深め、新たな伝統を築くべく一步を踏み出さねばならないと思います。ハインリッヒの法則ではありませんが、ヒヤリハット運動など地道な運動も展開し、8人の尊い命からの叫び、教えを語り継いで再発防止に努めたいと思います。

ところで6月の第一土曜日に定着しました同窓会総会におきまして役員改選が審議され、会長・副会長・監事全員が続投することになりました。偉大な大先輩である車田孝夫先生の後を引き継がせていただき、私も二期目に入りました。あと3年間、副会長・監事の皆さんとスクラムを組んで活性化に努め、次にバトンタッチしたいと考えています。ご指導、ご協力のほどよろしくお願いいたします。

世の中に目を向けてみますと、歴史と伝統ある同窓会はどこでも若い会員の事業参加が少なくなってきたり、同窓会運営にも大変苦労しています。東京会では若い人たちの新たな動きが出てまいりました。大いに期待しております。

母校に赴任して

大田原高等学校長 三森 謙次
 (高30回)



4月より学校長を拝命いたしました三森謙次と申します。本校を卒業して以来、教諭としての赴任は叶いませんでしたが、ほぼ30年振りに校長として戻ることができました。よろしくお願い致します。

今年3月27日に発生した雪崩事故に際しましては、紫塚同窓会員の皆様から、お悔やみやお見舞い、支援の申し出、励まし等、物心両面にわたるご支援を賜り、この場を借りて厚く御礼申し上げます。

この雪崩事故は、県高体連登山専門部が2泊3日で開催した講習会の最終日に起こりました。本校の山岳部は技術的にも体力的にも優れていたことから、先頭の第一班として雪上歩行訓練に臨み、結果として全員が雪崩に巻き込まれ、生徒7名、顧問1名の尊い生命を失うという未曾有の惨事となってしまいました。事故を受け、すべての教育活動の安全面を再点検するという観点から、31回を数えた85キロ強歩の今年度実施を見送りました。事故の教訓をしっかりと胸に刻み、次年度の第32回強歩はもちろん、すべての教育活動において万全の安全対策を講じていきたいと考えております。

さて、高校教育は今、大きな転換点にさしかかっています。IT技術の急速な発達に伴い、知識や情報が簡単に手に入る時代になりました。これからは、その知識や情報をどう活用するか、また、経験したことのない課題にどう対処するかが問われる時代になっており、こうした時代を切り拓く人材を育成するため、授業内容だけでなく授業手法が大きく変わろうとしています。改革のキーワードは「主体的、対話的で深い学び」です。本校では、授業でのグループワークや総合的な学習の時間における課題研究を通して、協働して課題解決にあたる能力やプレゼンテーションスキルを身につけさせることに力を入れています。こうした改革の一環として、今の中学3年生が受験する大学入試からは試験方法や内容も大きく変わる予定です。大高は質素堅実の伝統を貫きながら、時代の要請に応じた人材の育成を目指して教職員一丸となって取り組んで参ります。

2016・17 事業報告

第3回霜月懇和会

日 時：平成28(2016)年11月12日(土)
 会 場：カシマウェディングリゾート
 参加者：同窓会員、役員、担当教職員

- 数えて3回目の事業である。今回の講師は、大田原市なす風土記の丘湯津上資料館・歴史民族資料館長の木村康夫氏(高22回)であった。
- 長年にわたって民族学を研修してこられた氏の、自作資料を交えた講話に、参加者一同、頷いたり驚いたりとの連続であった。
- 資料をここに掲載する。

那須・八溝の文化風土記～道の文化誌

1 はじめに～旅人が見た那須野が原(曾良本『おくのほそ道』より)

那須の黒ばねと伝所に、知人あれば、是より野越にかかりて直道をゆかむとす。遙に一村を見かけて行に、雨降り日暮るる。農夫の家に、一夜をかりて、明れば又野中を行。そこに野飼の馬あり。草刈おのこになげきよれば、野夫といへども、さすがに情しらぬはあらず。いかがすべきや。されどもこの野は東西縦横にわかれて、うるうるしき旅人の、道ふみたがへむ。あやしう侍れば、この馬とどまる所にて、馬を返し給へとかし侍ぬ。ちいさきものふたり、馬の跡したひてはしる。ひとりは小娘にて、名をかさねと云。聞なれぬ名の、やさしかりければ、

かさねとは八重撫子の名成べし 曾良

やがて人里に至れば、あたひを鞍つばに結付て、馬を返しぬ。

2 歴史の道が創造した那須・八溝の文化風土

(1) 古代～東山道と那須国造碑

- ・律令国家制度における地域史を語っている
 ～渡来人の国家建設参画と先進文化浸透(仏教・作陶・製鉄・産金)
- ・日本最初の考古学発祥の地
 ～笠石神社、上・下侍塚古墳の整備事業→水戸光圀と地域ネットワーク

(2) 中世～秀衡街道と温泉神社

- ・那須の巻狩(頼朝の東国武士団掌握)
 ～那須野の地名由来(狩野・東小屋・南郷屋)や殺生石伝承の発生源
- ・扇状地形・河岸段丘を巧みに利用した領地支配
 ～河川(漁業)・湧水・用水(新田開発)・草地(牧)・雑木林(薪炭)
 =「治山治水」は領地支配の「カリスマ性」を示す=「温泉神社」が多い
 ※「一所懸命」(本領安堵)→「一生懸命」

(3) 近世～奥州道中・原街道・会津中街道

- ・東北諸藩大名の参勤交代
 ～助郷による地域意識・社会意識向上
- ・近江商人の地域経済活動
 ～地下水を巧みに利用した醸造業
- ・湧水・用水開鑿による新田開発・雑木林利用
 ～近代開拓への呼び水(加勢友助・山口鉄五郎)

(4) 近代～新陸羽街道(国道4号)・東北本線(新幹線)

- ・殖産興業・富国強兵
 ～那須疏水(養蚕・畜産・林業・新田開発) ・「産業組合発祥の地」
- ・地域リーダー(名望家)のネットワーク
 ～那須野ヶ原総合開発事業(矢板武・印南丈作・植竹三右衛門・西山真太郎・鮎ヶ瀬淳一郎
 安生順四郎)

第4回正副会長監事会

日 時：平成29(2017)年1月25日(水)
場 所：大高小会議室
参加者：増淵会長以下役員

- 常任理事会を前に懸案事項の打合せを行う。

常任理事会

日 時：平成29(2017)年2月24日(金)
会 場：カシマウェディングリゾート
参加者：増淵会長以下役員、常任理事
植木校長、職員 計45名

- 平成28年度事業報告、一般会計・特別会計中間報告は承認された。平成29年度事業・予算案についても承認された。
- 平成29年度は役員改選期にあたり、事務局(学校同窓会係)からの現役員体制案が承認された。

第69回同窓会入会式

日 時：平成29(2017)年2月28日(火)
会 場：大高体育館
参加者：増淵会長

- 卒業生は、旧制中学(第1~44回)時代に3,806名。併設中学校(第1・2回で)50名。高等学校(第1~68回)になって20,532名の卒業生が巣立った。ここに本年の卒業生232名を加え創立以来の卒業生総数は24,620名になった。
- 同窓会長の入会式式辞で、先ず紫塚同窓会への入会歓迎のことばがあった。続いて氏が53年前の卒業時予餞会で、雲巖寺の植木老師から「お・い・あ・く・ま」という人生訓を授けられ、爾来大切に生かしてきたことが紹介された。そしてここ大田原高校で身に付けた基礎を土台に、更に磨きをかけ、大きく羽ばたいて欲しいとの話があった。最後に奨学団に対する貴重な寄付に対するお礼のことばで締めくくられた。
- 続いて年次委員の委嘱に移り、年次代表の田角心君(西那須野中出身)に年次委員の委嘱状が手渡された。続いて渋井雅希君(日新中出身)が宣誓し、大山百々勢君(西那須野中出身)に記念品が贈呈された。
- 最後に植木校長の祝辞により厳かな入会式が閉じられた。

第115回創立記念式典

日 時：平成29(2017)年4月19日(水)
会 場：大高体育館
参加者：増淵会長以下役員、会員
生徒、教職員

- 記念式典後、神島誓雄氏(高28回、東芝メディカルシステムズ上席常務)が記念講演を行う。演題は『「若き命の感激」を胸に大きく羽ばたけ大高生!』であった。
- 高校時代の勉強や日常生活・大学生活の話に始まり、東芝に就職してからの履歴等に話が及んだ。またつい最近まで「東芝メディカルシステムズ・ヨーロッパ社」のCEOとしての仕事にも触れ、特にマンチェスター・ユナイテッドとバルセロナにCTやMRIを納品して、香川真司やルーニーなどの著名選手と会談した話や映像などは、多くの生徒が関心をもったようであった。
- 那須雪崩事故から20日あまりしか経っていない時の講演であり、さらには前年末に「東芝メディカルシステムズ」から、キャノンの傘下に入ることが決まるなどの会社の移行期ということもあり、講演の講師としてはなかなかやりづらい面もあったことであろうが、生徒の興味をひかずにはおかない話で講演をしていただいた。また最後には下記のような、生徒への激励の言葉で締めくくっていただいた。

生徒の皆さんへ

1 視野を広く持て! いろいろな事柄に興味を持て!

世の中には皆の知らないことがたくさんある。知らないなどもったいない。

2 チャンスを逃すな! 違っていたらやり直せばいい。

3 物事を大きく考えろ! 社会の役に立つつもりで。

皆、人に支えられている。人のためになることをしてほしい。

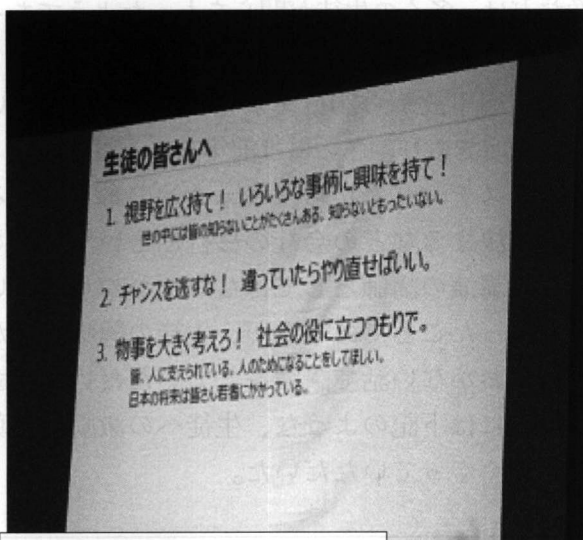
日本の将来は皆さん若者にかかっている。

4 仲間を大切に(特に多感な高校時代の)。
一生付き合える。相談できる。息抜き。

5 英語は必要。



パワーポイントを使用しての講演中の神島誓雄氏



生徒への激励のメッセージ



生徒代表からの謝辞・花束贈呈

第1回正副会長監事会

日 時：平成29(2017)年5月1日(月)
 会 場：大高小会議室
 参加者：増淵会長以下役員

○総会進行・役割分担について検討する。

監査

日 時：平成29(2017)年5月17日(水)
 会 場：大高小会議室
 参加者：増淵会長、監査、職員

○菅谷正男・後藤伸一監事が監査を実施する。

十年会第1回準備会

日 時：平成29(2017)年5月26日(金)
 場 所：大高会議室
 参加者：増淵会長、担当副会長、教職員
 担当年次理事

○十年会までの進め方について説明をする。また例年の如く総会・懇親会の進行役を高29回とすることが決まる。

第2回正副会長監事会

日 時：平成29(2017)年5月26日(金)
 会 場：大高小会議室
 参加者：増淵会長以下役員

○総会進行・役割分担について再度検討する。

総会・懇親会

日 時：平成29(2017)年6月3日(土)
 場 所：大田原温泉ホテル龍城苑
 参加者：増淵会長以下役員、会員
 三森校長以下教職員

○午後3時から総会、午後4時30分より懇親会が行われた。詳細は後述。

十年会第2回準備会

日 時：平成29(2017)年7月21日(金)
 場 所：大高会議室
 参加者：増淵会長、福田・楨担当副会長、
 担当年次理事、教職員等

○十年会の進め方等について、担当年次の理事を中心に最終確認をする。

第64回十年会

- 十年会は、卒業してから10年に一度の節目で行われ、人生の根を培ってくれた母校を思い出し、共に青春時代を送った同級生との旧交を温める10年に一度しかない機会であります。
- 従来8月15日に固定化して実施しておりましたが、平成26年度より8月15日を含めた「8月15日以降の土曜日とする」と変更しましたので、今年度はお盆期間中よりかなりずれてしまいましたが、8月19日(土)に「ウェディングリゾートカシマ」において行われました。
- 参加者は、高9回、19回、29回、39回、49回、59回の卒業生と各年次の恩師の先生方、三森謙次校長をはじめ関係者、増淵忠行同窓会長ほか本部役員を含めて118名の出席となりました。
- 会は、会長挨拶、学校長挨拶の後、一番の先輩にあたります高9回の金子哲也氏の乾杯で始ま

日時：平成29(2017)年8月19日(土)
 会場：カシマウェディングリゾート
 参加者：高9, 19, 29, 39, 49, 59回会員
 増淵会長・学校長以下役員、教職員
 総数118名

り、各テーブルは久しぶりに会った旧友との歓談の渦へと進んで行きました。各テーブルの様子は、20代から70代まで卒業後の経過によりそれぞれの雰囲気があり、会場全体を盛り上げておりました。あっという間に楽しい2時間が過ぎ、席を立つのも惜しまれましたが、最後に10年後の再会を祈念して高19回卒業の下鳥大作氏により十年会ならではの万歳三唱で締めただき終了しました。最後は、記念撮影をしてそのあと年次ごとに計画した年次会へと移動した学年もありました。

○後述しました参加者の感想文もご覧いただきまして、雰囲気を味わってください。



会長挨拶



受付風景



三森校長挨拶



恩師の先生方が勢揃い



金子哲也氏(高9回)の音頭で乾杯

第64回十年会

日時：平成29(2017)年8月19日(土)
会場：カシマウェディングリゾート
参加者：高9, 19, 29, 39, 49, 59回会員
増淵会長・学校長以下役員、教職員

第64回十年会に参加して

金子 哲也 (高9回)

平成29年度第64回「十年会」が開かれました。我々は高卒第9回で、今回が最後の集いになりました。

高校在学の時には300人程いましたが、今回集まったのは18人でした。クラスごとの集まりですと、もっと出席するのですが、60年ぶりの顔合せなので、6クラス全部となるとなかなか顔を思い出すのも難しくなっていました。

式典・懇親会后、希望者だけで飲み屋に集まり、旧交を温めました。卒業後長い間、大高の「質素堅実」をずっと抱いて歩んで来た仲間なので、特別の感慨に浸りながら語り合うことができました。2年後には傘寿になり、同級会を開くことにしていますので、今回来られなかった方も、是非お元氣でご参加下さい。

第64回十年会に参加して

鈴木 隆一 (高29回)

今回で4回目になる十年会でした。わずか19名の参加ではありました。また、渡辺先生、稲垣先生、川崎先生をはじめ諸先生方にも足下の悪いなかご参加いただきました。ありがとうございました。

雷雨の中始まった一次会でしたが、先生方を囲んで、高校生当時授業で作った文集などを読みながら歓談のひとつきを過ごしました。還暦の前祝いの気分で始まった会でしたが、いつの間にか気持ちちは制服を着た紅顔の高校生の面立ちに戻っておいりました。また一方で、還暦という節目を迎える年代相応の落ち着いた雰囲気を感じさせ、また、教室の内外の思い出話の中にも、この時を十分楽しもうといった落ち着きも感じられる29回卒のグループでした。

第64回紫塚同窓会 十年回開催される

榎 進 (高39回)

私達が大高を卒業して30年が経ちました。30年前の夏と言え、午後になると遠くの空に入道雲がもくもくと出現して、しばらくすると少しずつ膨らみ始めた稲穂の上に、雷をとどろかせながら夕立が降ってきました。夕立が止むとセミの鳴き声とともに日が暮れていったものでした。それから月日が流れ現在と言え、ゲリラ豪雨や記録的短時間大雨情報が常識になるくらい、昼夜関係なく突然大雨が降ってくるようになっていきます。

同窓会当日もお昼から突然の大雨で、同窓会が始まる時間には雨が止みましたが、会場周辺は水たまりだらけでした。第64回紫塚同窓会十年回は、平成29年8月19日(土)午後3時より、大田原市のカシマウェディングリゾートで開催され、私達高39回からは21名の参加がありました。恩師稲垣重弘先生と森島堅二先生が招待され、恩師を囲んで母校談義に花が咲きました。同窓会会長増淵様、学校長三森様の挨拶で同窓会、母校の現況が報告されました。

校歌斉唱では、みんなが懐かしい校歌を口ずさみながら高校時代を思い出し元気を頂いたことでしょう。最後に記念撮影をして同窓会は終了しました。その後、カシマ別室で同期会を開き、各々で3次会へ繰り出す同窓生もいて、楽しい時間を過ごせたと思います。

さて10年後私達は58歳、もうすぐ定年退職を迎える年齢です。その時はどんな話題で盛り上がるのでしょうか。退職後のこと、孫のこと、健康のこと、もしかしたら母校の甲子園出場のこと。またみんなが集まれたらいいですね。

第64回十年会に参加して

常松 洋一 (高49回)

大高を卒業して20年。2回目の十年会が開催されました。今回は我々の恩師、添田修先生、大金一幸先生、滝沢昌弘先生、齋藤良則先生、鈴木陸生先生の5名の出席を頂きました。平成9年卒の同窓生の出席は10名。ちょっとさみしい十年会となってしまいました。しかし、会はとても楽しく、恩師の方々との昔話、思い出話、当時の裏話など

有意義な時間が過ごせました。会の最後に校歌を久しぶりに歌いました。「若き生命の感激は～」は高校時代の映像を鮮明に蘇らせてくれました。次の十年会是我々が49歳になる年です。恩師の名前を見て懐かしく思った方、校歌を見て懐かしく思った方、ぜひ次回はお会いしましょう。最後に、十年会の開催にあたりご尽力頂いた同窓会役員、準備委員の皆様へ深く感謝申し上げます。ありがとうございました。



参加者全員で祝杯をあげる



恩師の先生を囲んで歓談

第64回十年会



各年次ごとに記念撮影

総会・懇親会

午後3時から総会、午後4時30分より懇親会が行われた。

本年度は、総会前に平成29年3月27日那須岳雪崩事故で亡くなられた尊い8名の方々の霊に出席者全員で黙祷を捧げた。

増渚会長挨拶、続いて本年度第31代校長として4月に着任された三森校長挨拶、そして栄典者・当選者が紹介され、増渚会長からお祝いの言葉と金一封が贈られた。総会議長については、平成27年度からその年の十年会該当年次からの選出となり、今年度の総会は、鈴木隆一氏(高29回)が議長

日時：平成29(2017)年6月3日(土)

場所：大田原温泉ホテル龍城苑

参加者：増渚会長以下役員、同窓会員
三森校長以下担当教職員 総数60名

として議事が進められ、平成28年度事業報告・決算報告、平成29年度事業計画・予算は原案通り承認された。また、本年度は任期3年の正副会長監事の役員改選期にあたり、現執行部体制の増渚会長以下副会長監事の二期目が承認された。

報告事項の中では増渚会長・三森校長から現在までの那須岳雪崩事故についての対応状況についての説明、さらには出席者からも献花報告等があった。

◆◆平成28年度一般会計決算報告◆◆

○収入

前年度繰越	176,190	繰越金
入会金	2,560,000	入会終身会費
寄付金	1,075,000	寄付金
雑収入	486,674	会報広告費等
合計	4,297,864	

○支出

創立記念費	116,490	講師謝礼等
総会費	64,748	案内葉書等
十年会費	347,812	案内状郵送費等
霜月懇和会費	38,960	
広報費	550,431	印刷・郵送費
卒業褒賞補助	100,000	証書ホルダー代
母校活動補助	997,738	母校教育活動補助
支部会等補助	486,250	支部会への補助
慶弔費	255,200	祝金・香典等
餞別費	85,000	教職員への餞別
旅費	179,120	交通費
会議費	3,176	常任理事会経費
通信費	46,322	案内葉書等
消耗品費	2,088	消耗品費等
雑費	6,042	郵便振替手数料
予備費	0	
合計	3,279,377	

◆◆平成28年度特別会計決算報告◆◆

収入額	20,474,659	繰越金、利息
支出額	0	
現在高	20,474,659	

◆◆日光杉並木保護基金◆◆

日光杉並木オーナー	10,000,000
-----------	------------

◆◆平成29年度事業計画◆◆

(前出の事業は除く)

- 11月18日(土) 第4回霜月懇和会
- 1月下旬 第3回正副会長監事会
- 2月下旬 常任理事会
- 2月28日(水) 同窓会入会式(高70回)

◆◆平成29年度一般会計予算◆◆

○収入

前年度繰越	1,018,487	繰越金
入会金	2,320,000	入会終身会費
会費	250,000	会員終身会費
寄付金	70,000	寄付金
雑収入	501,513	会報広告費等
合計	4,160,000	

○支出

創立記念費	150,000	講師謝礼等
総会費	100,000	案内葉書等
十年会費	400,000	案内状郵送費等
霜月懇和会費	60,000	案内状郵送費等
広報費	800,000	印刷・郵送費
卒業褒賞補助	100,000	証書ホルダー代
母校活動補助	600,000	母校教育活動補助
支部会等補助	500,000	支部会への補助
慶弔費	130,000	祝金・香典等
餞別費	100,000	教職員への餞別
旅費	250,000	交通費
会議費	20,000	常任理事会経費
通信費	80,000	案内葉書等
消耗品費	20,000	消耗品費等
雑費	30,000	郵便振替手数料
予備費	820,000	
合計	4,160,000	

◆◆叙勲・栄典者◆◆

○平成28年度秋の叙勲

佐藤 精市氏(高10回):瑞宝双光章
 小高 一紘氏(高15回):旭日双光章
 森嶋 禮三氏(高17回):瑞宝双光章
 坂本 薫氏(高24回):瑞宝单光章

○平成29年度秋の叙勲

小林 重夫氏(高2回):瑞宝双光章

○当選

渡辺 喜美氏(高22回):参議院議員

○功労者

新江 侃氏(高12回):瑞宝双光章
 横山 幸立氏(高17回):旭日双光章
 野崎 修市氏(高21回):瑞宝单光章

吉川 惠造氏(高7回):旭日单光章

◆◆平成29年度支部総会等◆◆

○紫塚同窓会宮城支部総会:7月1日(土)

JALシティホテル仙台

○紫塚同窓会矢板支部総会:7月8日(土)

矢板イースタンホテル

○紫塚同窓東京会役員・幹事会:7月29日(土)

品川プリンスホテル

○県庁紫塚同窓会総会:8月3日(木)

ニューみくら

○紫塚同窓会ゴルフ大会会長杯:10月16日(土)

○近畿紫塚同窓会総会:10月22日(日)

新都ホテル

○小川地区紫塚同窓会総会:11月11日(土)

みづ乃

○紫塚同窓東京会総会:11月5日(日)

品川プリンスホテル

○宇都宮紫塚同窓会総会:2月

ホテル丸治

◆◆終身会費制度と新たな財源徴収について◆◆

【現状と課題】

- 1 財源基盤の弱さから、母校支援と同窓会活動が制限されている。会則第21条に「経費に余剰が生じたときは、これを基金に編入するものとする。」とあるが、基金にまわす余裕がなく、現在は予算書・決算書からその費目さえも消えているくらいに同窓会財務が逼迫している。
- 2 終身会費納入は、新卒者が中心で既卒者からは望めない段階にきている。
- 3 同窓会予算の主財源は終身会費収入一辺倒でなく、新たな財源基盤が必要である。
- 4 終身会費制度は、廃止するか存続させるかの検討が必要である。
- 5 新たな財源は、任意徴収なのか全員徴収なのかの検討が必要である。
- 6 新たな財源徴収は、終身会費同様1回きりなのか、毎年度なのかの検討が必要である。

【問題点】終身会費制度の廃止と新たな財源を考えると、下記の問題点が考えられる。

- 1 会則第19条の「終身会費」との整合性がとれず、大きな会則変更になる。
- 2 終身会費を廃止すること自体に納付者と未納者との不公平感が発生する。
- 3 任意徴収とした場合は、新卒者も任意となり、基礎財源までも失う可能性がある。
- 4 全員徴収とした場合は、終身会費同様未納者への難しい対応問題が生じる。
- 5 徴収を終身会費同様に1回とすると、やがて終身会費制度同様の財政逼迫の危機がくる。
- 6 年度毎の徴収とした場合には、名称と徴収金額設定の検討が必要になる。

【検討案】上記問題を考慮し、終身会費制度は存続させる。このことを前提として新たな財源徴収を考えた場合は

- 1 基礎財源は新卒者の終身会費で確保する。→6クラス×40名として240万円。
- 2 徴収は任意とする。
- 3 対象は最初の十年会該当年次からの既卒者全員とする。
- 4 年度毎に任意で徴収する。
- 5 新名称は、「特別年度協力金」として一口2,000円とする。
- 6 依頼・徴収方法は
 - ア 会報郵送者⇒振込用紙を同封する。
 - イ 会報ホームページ閲覧者⇒ホームページ上に振込先を明示する。
 - ウ 総会・常任理事会当日⇒会場でも受け付ける。
 - エ 十年会該当年次⇒案内に振込用紙を同封し、十年会当日も会場で受け付ける。
- 7 従来の決算・予算書欄に「年度協力金」を付け加える。
- 8 「特別年度協力金」寄付者名簿を作成し、同窓会報に同封し、ホームページ上にも掲載する。
- 9 新たな財源は、会則第7章会計第18条の中の「その他の収入」とする。

各支部の活動

宮城支部総会報告

事務局長 鈴木 哲 (高26回)

平成29年度の紫塚同窓会宮城支部総会が7月1日ホテルJALシテイ仙台で開催されました。本年3月に大変悲しい事故がありましたので、みなさん重苦しい雰囲気集合しました。最初にご不幸に会われた生徒様、ご遺族様のご無念、悲しみを思い、黙祷を捧げました。

増渚紫塚同窓会長から、事故後の対応の丁寧な説明があり、同窓生として悲しみを共にいたしました。

今回の明るい内容としては、数学者、物理学者の室井和男さん(高25回)がパンパイプの演奏をしてくださったことです。室井さんの大変興味深い著書(シュメール人の数学、永久に生きるとは一シュメール語のことわざを通して見る人間社会、他)の紹介と共に奇才ぶりが披露されました。集合写真、室井さんのパンパイプ演奏の写真を添付します。



宮城支部総会参加のみなさん



パンパイプを演奏する室井さん

平成29年度矢板支部活動状況

事務局 大澤 英勝(高46回)

那須雪崩事故の被害に遭われた方々、遺族の皆さま、関係者の皆さまに、心よりお悔やみとお見舞いを申し上げます。

矢板支部では、定期総会と同時に開催する講演会、懇親会と強歩の際の矢板エリアでの応援を主たる活動としております。

那須雪崩事故で矢板市の高瀬淳生さんが犠牲になるなど痛ましい事故の報を受け、強歩が中止となるなど自粛ムードが漂う中、役員会において平成29年度は懇親会の開催を見送るべきではないかと検討を行いました。さまざまな意見がありましたが、同窓会他支部の動向等を踏まえ、例年通りの開催とすることを決定しました。

6月19日(土)に市内のホテルにて、増渚忠行同窓会会長、三森謙次校長先生をお招きして、会員23名出席のもと、定期総会、講演会、懇親会を開催しましたので、その様子を報告いたします。

開会に先立ち、出席者全員で黙祷。

総会では、事業報告・会計報告のほか、当支部の役員改選が行われ、新会長に山口忠男氏(高20回)が選任されました。

また、山岳部OBで初代主将を務められた萩原浩好氏(高40回)から、那須雪崩事故後の山岳部OBの対応状況、後輩たちに対する思いについて紹介がありました。

総会終了後、三森謙次校長先生より「現在の大田原高校」と題して講演会が行われ、学校行事、部活動、進学状況等についてつぶさに説明をしていただき、母校の現状を知ることができました。三森謙次校長先生には、なにかと多用の折、総会に出席いただいた上、講演までお引き受けいただき、ありがとうございました。

その後の懇親会では、高11回から高65回までの半世紀を超える世代間の同窓生が親睦を深めることができました。楽しい時間はあっという間に過ぎ去り、最後に恒例となった若手会員有志による校歌合唱でしめくり、母校への思いと同窓生の絆を改めて感じながらの散会となりました。

栃木県庁紫塚同窓会総会報告

幹事・世話人一同

平成29年8月3日(木)宇都宮市内の「ニューみくら」において、県庁紫塚同窓会総会及び懇親会が開催されました。三森校長をはじめ、増渕紫塚同窓会長、大島首都圏紫塚同窓会東京会長、更には川上顧問の御参加をいただき、新たに会員となった職員などの会員を含め総勢33名での盛大な会となりました。

総会では、役員改選が行われたほか、今年度の行事予定などの説明がありました。役員改選では、新会長に渡邊農政部長、新副会長に石崎経営管理部次長兼人事課長及び山本情報システム課長が選出されました。

行事予定では、総会の開催、紫塚GFゴルフクラブコンペへの参加、大田原市職員との情報交換会、退職者を囲む会の開催が予定されている旨説明があり、会員の賛同を得て、実施することとなりました。

総会後の懇親会では、三森校長から、大田原高校の近況報告や増渕会長からの挨拶、また新たに会員となった職員の抱負発表などがあり、大いに盛り上がりを見せていました。最後には恒例の校歌を参加者みんなでの大熱唱となりました。参加された皆様、大変ありがとうございました。来年度もどうぞよろしくお願いいたします。

首都圏紫塚同窓東京会総会・懇親会

青木 義脩(高13回)

第65回首都圏紫塚同窓会東京は、11月5日(日)午前11時30分、東京都港区の品川プリンスホテル新館メインタワー15階宴会場「トパーズ15」で総会及び懇親会を開催、来賓や大田原女子高同窓会東京支部会員など合わせて100名が出席した。創立65周年の歴史と伝統を諸先輩のご尽力に感謝し、さらに活性化したいという願いが込められた総会であった。

まずは、春原正三副会長(高20回)の総合司会で記念講話に移り、「大田原市と宮崎県椎葉村一旭化成が取り持った現代の縁結び」と題して、旭化成(株)常勤監査役(前同社代表取締役副社長)である小林友二常任理事(高23回)が行った。続い

て、「ふるさと大田原市・那須塩原市の今!」と題して、大田原市の長山林副市長(高22回)、佐藤芳昭産業振興部長(高28回)、那須塩原市栗野誠一企画部シティプロモーション課長(高36回)が紹介した。

このうち、平成29年3月27日に起こった大高山岳部那須雪崩事故の犠牲者8名に、また、当会増渕信義監査役ほか会員3名のご逝去を悼み黙祷を捧げた。

総会に移り、春原副会長と一木信嗣会員(高60回)が司会を務め、まず、大島栄寿会長(高6回)の挨拶があり、議事が開始された。阿久津賢次副会長(高16回)から平成28・29年度の事業報告、今泉薫副会長(高20回)から28年度会計報告、続いて監査報告が代読され、いずれも質問もなく報告の通り承認された。続いて、役員員の追加と変更が承認された。

続いて、本校同窓会増渕忠行会長(高16回)、大田原高校三森謙次校長(高30回)、栃木県東京事務所小祝章二所長(高29回)から来賓の挨拶、続いて来賓紹介で、千草会東京支部の佐藤百代支部長ら10名(若い会員も含め)、栃木県東京事務所篠崎正康氏、栃木県議会議員山口恒夫氏(高34回)、同窓会事務局平山彰大高教諭(高38回)らが紹介された。ここで恒例の田村恒彦会員(高38回)のクラシックギター演奏があった。雪崩事故犠牲者の鎮魂に願いを込めて『悲しみの礼拝堂』をつま弾いた。会場には物音一つしない時が流れた。

懇親会は、菊地健男副会長(高33回)、坂田修理事(高26回)が進められ、開会の辞は齊藤忠正副会長(高29回)が宣言し、乾杯の発声は相馬誠一副会長(高6回)が行った。懇談の時間になり各テーブルとも懐かしい話や近況報告、久しぶりに会う会員の席を回るなど、会食ともに忙しい時を過ごした。初参加の会員、久方ぶりの参加会員にはスピーチを依頼し、会に対する考え方や往時の思い出を語っていただいた。平成25年卒業の吉川恭平会員が最も新しい出席会員になる。その後も歓談が続き、最後は恒例の校歌斉唱となり、菊地健男副会長の指揮で母校に思いを込めて厳粛に歌い上げた。閉会の言葉は、桑原裕副会長(高10回)が述べた。記念撮影は青木が担当した。午後2時30分散会し、思い思いの青春時代を持ち帰った。

近畿紫塚会・千草会近畿支部合同同窓会

松木 守夫(高20回)

平成29年10月22日、「新都ホテル」にて第82回近畿紫塚会を開催しました。当日は台風接近の悪条件にもかかわらず、近畿紫塚会会員11名、千草会近畿支部2名、紫塚同窓会長増淵様、大田原高校より三森校長、事務局平山先生、大田原女子高校より青木校長、事務局木村先生が参加されました。本当にありがとうございました。

会は始めに、栃木県那須町の雪崩事故に遭遇されて亡くなられた8名に対して、また、近畿紫塚会会員の高20回の小山田氏が病死されたことにあ

わせて、1分間の黙祷から始まりました。

式次第より、各会長の挨拶、本部長挨拶、校長挨拶と順調に進み、乾杯、会食となりました。サプライズとして、増淵会長より「大田原今昔」という懐かしい映像を見せていただき、会員の皆様は見入ってしまうほどでした。会長、ありがとうございました。

最後に、那須町の雪崩事故の犠牲になられた8名の方々のご冥福をお祈り申し上げます。



齊藤 菅沼 高橋 森 福吉 中山 坂和 村田 渡辺 福田
阿見 青木 増淵 八木沢 三森 平山 木村 松木

【敬称略】

母校の近況

寒稽古

日時：平成29(2017)年1月18日(水)
～1月20日(金)

- 今年の寒稽古は降雪のためセンター試験翌日の月曜日と火曜日に実施できず、3日間の実施となった。連日600名弱の参加があり、3日間の参加者累計は1761名であった。最終日には恒例の豚汁の炊き出しがあり、保護者の皆様の愛情たっぷりの豚汁を何杯もお代わりしている生徒もいた。

◆寒稽古◆

1年6組 渡辺 俊介

1月18日から20日までの三日間、初めての寒稽古に臨みました。本来は一週間のはずが、雪の影響で二日間なくなってしまいました。寒稽古は耐寒マラソン、柔道、剣道、弓道の四つの内から選ぶことができ、私は耐寒マラソンを選びました。6時頃には、とても暗く足場も悪い状況でした。走る距離は7キロ。走ってみると、楽しそうな人、辛そうな人、苦しそうな人、さまざまな人がいました。私はこの三日間をとっても楽しく過ごしました。走る前から「辛い」「嫌だ」そう思っている、新しい発見ができないと思います。走っていると、だんだんと明るくなり、まぶしくなってきました。そして、走り終わると目が覚め、走った達成感と朝からかいた汗、すべてがマッチしすごく気持ちの良い朝のスタートが迎えられます。しかし、走り切るという「強い気持ち」がないと、この感覚は味わうことができません。この「強い気持ち」を鍛えられるのが寒稽古だと思います。「強い気持ち」を鍛えることで勉強やスポーツにも活かされると思います。

この一週間をしっかりと乗り切ると、保護者の皆さんが朝早くから作ってくれる豚汁が待っています。走り終え少したって、冷えた身体に豚汁は普段の何十倍もおいしく感じました。初めての寒稽古は決して楽なものではありませんでした。しかし、楽ではなかった分、得るものはたくさんありました。新しい発見、朝から汗をたくさんかくこと、友達と楽しく走ること、寒稽古で得たたくさんのお話を、これからの学校生活に活かしていきたいと思います。

【大高新聞『紫窓』より】

第69回同窓会入会式

日時：平成29(2017)年2月28日(火)
会場：大高体育館
参加者：増淵会長

- 新たに卒業生232名を加え、創立以来の卒業生数は24,620名となった。会長からは紫塚同窓会への歓迎の挨拶と激励の言葉が贈られ、全員に卒業証書挟みが贈呈された。
- 同窓会入会式に先立つ表彰式において、平成28年度の紫塚奨学団賞の表彰状と懐中時計が高林中出身の坪山智彦君に授与された。坪山君は東京大学文科Ⅲ類に進学した。

平成28年度卒業式

日時：平成29(2017)年3月1日(水)
会場：大高第一体育館

- 高校第69回卒業式が挙行され、232名の卒業生が紫塚の学び舎を巣立っていった。卒業証書受領の総代はサッカー部で文武両道を貫いた東那須野中出身の三本木健浩君であった。
- 植木校長は式辞の中で宮沢賢治の妹としやノーベル賞を受賞した大隅教授の逸話などを通して、「いたわりの心」をもつこと、「質素堅実」を胸に素地の錬成を続けながらゆっくり堂々と歩んでいってほしいことなどを伝えた。

平成29年度入学式

日時：平成29(2017)年4月7日(金)
会場：大高第一体育館

- 4月7日、高校第72回入学式が行われた。近年になく高倍率の高校入試をくぐり抜けた240名の入学者が、晴れがましい表情で新たに就任した第31代三森校長の入学許可の呼名を受けた。代表宣誓は金田北中出身の鈴木健君が行った。

平成29年度修学旅行

日時：平成29(2017)年12月1日(金)
～12月4日(月)
行先：沖縄県那覇市、北谷町など

- 大高の修学旅行は平成13年度までは3月に関西方面へ行っていたが、航空機利用の解禁を受けて平成14年度からは沖縄へ足を伸ばしている。当時の記録を辿ると、沖縄第1回は平成15年3月に実施し、第2回は平成15年12月に実施して

いる。それ以来、第2学年の12月に平和学習、歴史学習、自然環境・文化学習を目的に沖縄修学旅行が行われてきた。

- 初日にひめゆり平和祈念館、二日目にガマを見学して地上戦が行われた沖縄戦について学んだ。三日目は班別研修で、マリンスポーツや工芸体験など、沖縄の自然や文化に触れ、最終日は首里城を見学して歴史を学ぶという行程であった。

那須雪崩事故

日時：平成29(2017)年3月27日(月)
午前8時43分頃

- 例年であればここには85キロ強歩の報告を掲載するのですが、表題の事故を受け、平成29年度の強歩は中止としました。ここでは雪崩事故の概要とその教訓を活かした次年度強歩の安全対策について報告します。
- 3月27日、本校山岳部は高体連登山専門部が主催する「春山安全登山講習会」の那須岳での雪上歩行訓練中に雪崩に遭遇しました。講習会には県内7つの高校から男女54名の生徒が参加していましたが、本校の当時二年生の3名、当時一年生の4名の生徒と山岳部副顧問教諭一名の計8名もの尊い生命が失われました。また、本校の当時二年生3名と当時一年生2名の計5名を含む40名もの生徒や引率教員が負傷するという大事故となってしまいました。亡くなられた生徒の皆さんには、それぞれが抱いていた夢や志がありましたが、それらはすべて叶わぬ夢となってしまいました。また、顧問の先生は念願叶って本県の教諭となり本校に赴任され、新年度からはクラス担任を任されることになっていました。そうした将来の夢や希望を断ち切られてしまった彼らの無念を思うと、言葉が見つかりません。亡くなった8名のご冥福を祈るとともに、この事故から得た教訓をしっかりと胸に刻み、二度とこのような過ちを犯さないことを誓いたいと思います。
- この講習会には県内高校山岳部の生徒男女54名の生徒が参加していました。講習三日目、最終日のこの日は、降雪のため当初予定されていた茶臼岳登山を取りやめ、テントを張って宿泊していたスキー場ゲレンデ付近の雪上歩行訓練に行動計画を変更しました。
- 本校の生徒12名は、他校顧問の先生を講師とし、本校教員を加えた14名で第1班を構成して行動を開始しました。班は全部で5班ありましたが、女子隊の5班以外はすべてゲレンデ横の樹林帯に向かいました。
- 体力面で最も充実していた第1班が先頭をいき、真岡高校の第2班と併走するように樹林帯を上がって行きました。樹林帯を抜けたところやその先で、引き返すかどうかという判断を何回か行いますが、結果的に樹林帯を抜けたその上の斜面で雪崩に遭遇してしまいました。併走していた第2班や、第1班の踏み跡を登ってきた第3班・第4班の生徒も雪崩に巻き込まれてしまいました。
- 今回の事故を検証した報告書には、事故発生の要因として主催者の「計画全体のマネジメント及び危機管理意識の欠如」が指摘されています。何年もの間安全に実施されてきたのだから大丈夫だという過信や、集団で指導に当たっているから安全だとの思い込みなど、マンネリズムや当事者意識の低さについて厳しい指摘がなされました。
- 事故の発生を受け、一月半後に実施する予定だった85キロ強歩の実施を見送り、1年後の実施を見据えて十分な時間をかけて安全対策を充実させました。具体的には①コースの見直し、②連絡体制の充実（緊急連絡先の完備、無線の増強）、③生徒指導の充実（ハザードマップ作成、しおりの改訂、試し歩き）、④支援体制の充実（救護体制の増強、立哨の増強、巡回車の増強）、⑤計画全体のマネジメント強化（運営マニュアルの改訂、PTA支部支援事業の把握）などです。
- 今後は、より安全な教育活動を積極的に発信していく学校を目指して、あらゆる行事における安全対策の見直しを行いながら、信頼される学校づくりを進めていきたいと考えています。

寒稽古4種目

耐寒マラソン



柔道



剣道



弓道



平成28年度卒業式

卒業証書授与



卒業証書授与



卒業生呼名

平成29年度入学式



入学式式辞



入学者代表宣誓

平成29年度修学旅行



シュノーケリング



ビーチバレー

母校の進路状況

平成28年度卒業生 進路状況報告

- 1 平成28年度卒業生 大学入試合格状況 ()内は昨年度の合格者数
- (1) 大学入試センター試験受験者 228名(昨年219名)
 - (2) 新卒国公立大学合格者最終延べ数(前・中・後期、独立、推薦) 113名(昨年94名)
 - (3) 過年度国公立大学合格者最終延べ数(前・中・後期、独立、推薦) 9名(昨年15名)
 - (4) 新卒・過年度国公立大学合格者最終延べ数(前・中・後期、独立、推) 122名(昨年109名)
 - (5) 主要大学の合格者数(卒業年度)

()内は過年度卒の内数

国公立大	28年	27年	26年	25年	24年
東京	1	0	1	0	1(1)
京都	0	0	0	0	0
東京工業	1	0	0	0	2
一橋	1	0	0	1	1(1)
大阪	0	0	0	0	1
名古屋	0	1	0	1	2
東北	4	9	10(2)	4	13
北海道	4	1(1)	1	1	1
神戸	1	0	0	0	0
東京外国語	0	0	0	0	0
筑波	1	1	1	4(1)	3
千葉	5	4(2)	0	3	6
埼玉	5(1)	11(1)	8	11	9(1)
新潟	6(2)	3(1)	6	6	7(1)
金沢	3	0	0	2	0
横浜国立	1	3(1)	3	0	0
東京学芸	2(1)	1(1)	0	0	3
東京農工	0	0	1	1	1
電気通信	1	2	2	2(2)	8
静岡	3	3	3	1	0
山形	6(1)	7	7(2)	3	6
茨城	9	5	5(1)	9	2
宇都宮	27(1)	12	22	13	10(1)
首都大東京	4	3	2(1)	1	3
その他	37(3)	35	41	47	39
現役前期合格者	102(含AO)	74(含AO)	90(含AO)	88(含AO)	100(含AO)
現役国公立合格者	113	94	107	107	113

私立大	28年	27年	26年	25年	24年
早稲田	11	6(1)	2	9(2)	12(1)
慶應義塾	3	4	2(1)	3(2)	6(2)
上智	6	7	1(1)	4(2)	3
学習院	0	0	0	0	0
明治	8	19	10	16(2)	21(3)
法政	27(1)	18(1)	11	23(3)	8(2)
立教	2	5	2	4(1)	4
中央	9	11	16	16(3)	16(3)
青山学院	2	6	2	7	10
東京理科	11(2)	13(1)	6(1)	6	21(3)
関西	4	1	2	1	0
関西学院	2	0	1	1	1
同志社	1	5	2(1)	2	2
立命館	1(1)	6	10	5(1)	4
芝浦工業	17(1)	13	3	15(1)	18
日本	41	25	46(1)	61(1)	50(3)
専修	7	9	10	16(2)	17(3)
東洋	18	15	15	13	12(1)
駒沢	7	14	22	13(1)	9
東海	15	7	13(3)	24(1)	18
神奈川	23	14	14	10	7(1)
国際医療福祉	1	20	16	15(2)	20(1)
獨協医科	1	1(1)	0	0	0
自治医科	0	1(1)	0	0	0
その他	151	139	164	144	126
現役私立大計	363	354	362	384	362
MARCH以上の合格者数	87	101	67	97	108

2 専門学校 5名

3 就職 1名

平成29年度 特別活動部の成績

平成29年3月～平成30年3月13日現在

平成29年度特別活動の記録

県大会

総体=総合体育大会

Table of prefectural sports results. Columns include No., Department, Level, Event Name, Venue, Item, Result, School Year, and Name. Rows cover various sports like陸上競技部, 相撲部, 剣道部, ソフトテニス部, and水泳部.

関東大会出場部

Table of Kanto regional sports results. Columns include No., Department, Event Name, Venue, Item, Result, School Year, and Name. Rows cover various sports like陸上競技部, 柔道部, 相撲部, ソフトテニス, and水泳部.

全国大会出場部

Table of national sports results. Columns include No., Department, Event Name, Venue, Item, Result, School Year, and Name. Rows include Sports Channel Para, Water, Soft Tennis, and Science.

紫塚奨学団報告

奨学団係 手塚 英雄

- 本紫塚奨学団は、公益法人制度改革により、公益法人化を目指してまいりましたが、平成26年4月1日付けで、公益財団法人紫塚奨学団として認可され活動を開始しました。新体制を立ち上げるにあたり、ご協力を賜りました方々に深く御礼を申し上げます。
- また、これまで長きにわたり当財団にご尽力いただきました多くの方々に、心より御礼を申し上げます。ありがとうございました。今後も新役員のもと、更なる財団の発展を目指してまいりますので、ご指導、ご鞭撻のほど宜しくお願い申し上げます。
- さて、当財団は大正7年、多数の同窓生から寄付された財産1,850円を基本財産として創設されました。事業の内容は、奨学資金の貸与と優良生徒の顕彰であり、基本財産が生み出す利子を主な事業資金とするものです。基本財産の充実については、創設後からの篤志寄付に加えて、昭和57年度に迎えた学校創立80周年記念事業の主たる事業として取り上げられ、同窓会の熱心なご協力をいただき飛躍的に増額されました。その後も同窓会をはじめ多数の同窓生からのご寄付をいただいております。
- 公益財団法人となりまして、今後は更なる事業の充実を視野に入れ、将来、社会に有益な人材の育成に力を入れていく所存であります。また昨年度より、給付制度を導入することが出来ました。ご趣旨に賛同される方はご協力のほど宜しくお願いいたします。
- 同窓生の皆様には従来より奨学団へのご支援をいただいておりますが、今後ともなお一層のご理解とご支援をいただければ幸いです。

◆公益財団法人紫塚奨学団役員◆

- 理事 増渕忠行 植木洋一 篠崎勝則
(9名) 平山亮二 池嶋英哲 伊藤和夫
森島堅二 福田富夫 川又勝寿
- 評議員 大島栄寿 渡辺光男 井上成紀
(11名) 荒川捷彦 鈴木卓雄 佐藤 貴
杉本 広 片柳 洋 岡野繁雄
神島仁誓 飯島秀人
- 監事 印南 隆 高橋知寿

◆◆◆公益財団法人紫塚奨学団 平成28年度事業報告◆◆◆

1 事業の状況

- (1)奨学金貸与 大学生2名
月額30,000円×12ヶ月×修業年限
- (2)奨学金給付 大学生2名 一括40万円
- (3)奨学団賞授与
①顕彰者：坪山智彦…賞状と記念品
(懐中金時計)

2 寄付金に関する事項(28.4.1～29.3.31)

・橋本忠明(高14回)様	30,000円
・篠崎勝則(現理事・高14回)様	30,000円
・金澤正邦(高15回)	30,000円
・小口好昭(高18回)様	50,000円
・大林茂俊(高23回)様	50,000円
・植木洋一(前校長・高27回)	100,000円
・平成28年度卒業生	232,000円
合計	522,000円

◆奨学団の口座です◆

- 郵便局振替口座
口座番号：00350-4-11356
口座名：公益財団法人紫塚奨学団

◆お問い合わせ先◆

- 係教諭：手塚英雄
電話：0287-22-2042(大高)

◆奨学団ホームページ◆

<https://www.murasaki-shougakudan.com/>

お知らせ

◆◆◆母校支援のご寄付を!!◆◆◆

- 会報39号・40号・41号に引き続いてのお知らせです。母校の各学年のクラス数は、多い時は学年8クラスでしたが現在は6クラスに減りました。当然のことながら卒業生の数が減少し、従って同窓会入会費も少なくなり、入会費がかなりのウェイトを占めている同窓会一般会計の収入が減少しています。このため従来のような母校支援が十分に行えない状況であります。
- 同窓会員諸氏のご援助をいただき、より一層の母校支援に役立てたいと思います。お振り込みは下記口座をお願いします。
- 郵便振込
口座名：栃木県立大田原高等学校内
紫塚同窓会
口座記号番号：00340-0-1748
※お振り込みいただく際には①ご芳名②卒業年次③電話番号をご記載下さい。

◆◆◆大切なお知らせ◆◆◆

- 同窓会の予算支出のなかで大きな比重を占めているのが、会報の郵送費です。その結果、次のような提案がなされて進めていくことになりました。
- 紙ベースの会報の郵送費を抑えるために、紙ベースの会報を従来通り希望するのか、ホームページで閲覧するので紙ベースの会報は不要かを、会報第42号・43号を送付するに際して伺います。
- ついては、紙ベースの会報を従来通り希望する方は、同封した葉書に必要事項を記載してご返送ください。なお、切手代はお支払ってください。
- 紙ベースの会報が不要な方は、葉書のご返送は必要ありません。
- したがいまして、今後の会報については、葉書で紙ベースの会報を希望された方のみを送付することになります。
- また第39・40・41号に同封された葉書をすでに本部宛に発送された方は、本部で承知しておりますので、今回同封の葉書を再返送される必要はありません。
- 以上、お手数をおかけしますが、よろしくお取り扱い下さい。

☆紫塚同総会 ホームページ☆

- URL <http://www.muradou.sakura.ne.jp>
- お問い合わせ、ご意見等はEメールにて
daikol@mudou.sakura.ne.jp

紫塚同総会 facebook

- 紫塚同窓会HP からリンクできます。
- どなたでも発信し、どなたでも受信できるのがfacebookの利点です。
- 同窓会の広報担当を中心として、これまで以上にタイムリーに発信してまいりますので、皆さまのご協力をお願いします。

☆特別年度協力金をいただいた方☆

【敬称略】

- 池嶋英哲(高20回)

同窓会各行事の際には、窓口を設けておりますので、よろしくご協力をお願いいたします。

編集後記

○まづもって、会報第42号、および第43号の発行が大幅に遅れましたこと、お詫び申し上げます。

○同期会とか会員近況等、会員諸氏からの投稿をお待ちしております。事務局までメール等で送信してください。